

東京外国語大学 環境経営論アンケート

開講日：平成18年7月31日
講師：小野木正人

1. 今日の講義の感想は？（複数選択可能）

- ① 楽しかった・・・・・・・・・・5人
- ② 面白かった・・・・・・・・・・7人
- ③ 勉強になった・・・・・・・・・・9人
- ④ わかりやすかった・・・・・・・・7人
- ⑤ もっと聴きたかった・・・・・・・・3人
- ⑥ 難しかった・・・・・・・・・・0人
- ⑦ 実践してみようと思った・・・・・・・・4人
 - スーパーでなく、八百屋で買おうと思った。
 - 今まで、ごみの分別をしていなかったが、してみようと思った。
- ⑧ 思っていたイメージと違った・・・3人
 - 思っていたよりも時事に結びついており、身近な感じがした。(3)
- ⑨ わかりにくかった・・・・・・・・0人
- ⑩ 友達にも薦めたい・・・・・・・・4人
 - 心理テストを薦めたい
- ⑪ その他・・・・・・・・・・1人
 - もっと濃い内容を詰め込んでも良いと思う。

2. 今回の講義内容で、何が一番印象的でしたか？

- 先進国（エコツアー）のスライド(2)
- 環境先進国と日本の環境に対する取り組みの違い（発電や商品梱包など）については、普段から新聞や書籍で触れて知っていたが、実際に細かいデータと写真を見ることができてよい経験になった。
- ドイツの環境に対する意識の高さ
 - 学識にとらわれず、各国の比較を通して学ぶことがとても大切だと思った。
- デポジット制度
 - デポジット料を受け取ることが一種の楽しみになっているのだろうか？
- バーチャルウォーター(4)
 - 日本は水ならいくらでもあると思っていたが、間接的に大量輸入していることに驚いた。
 - 世界の見方が少し変わった。
 - 今後、買い物や食事のときに気になりそう。
- ソーラーパネルの環境効果があまりよくない点
- 日本の家電リサイクル法という形態がとられている原因が日本における権力の構図と関係があるという点。

3. あなたにとって、得るもの、気づきなどはありましたか？

- アウトプットの重要性(2)
 - 日常会話でも、たくさんの人に話していくことによってストーリーが出来上がってきて、伝えやすくなるのがよくある。
- グループディスカッションが充実したものだだった。
- 交差交流（コミュニケーション）

- 環境教育の重要性(3)
- ドイツのリターナブルシステム (デポジット制度)
 - 日本では少し考えられないが、新しい発想として取り入れたら良くなりそう。
 - リターナブルな生活を実践してみようと思った。
- ペットボトルのリサイクルが環境に悪いことがわかって良かった。(2)
 - もっとメディアで大々的に報道されると良いと思う。
- 意識の問題か仕組みの問題かを考えることが重要。
- 単なる法整備や呼びかけ運動だけでは、様々な事態に対応できないため、人間心理を上手く利用した政策と取り組みや教育が必要であることを再認識した。(2)
- 先生が「！」を多く使うこと。

4. 上記以外で、受講した感想を自由に書いてください。

- ディスカッション形式が非常に良かった。
 - 自分の考えを正してくれたり、自分が気づかない視点に気づけることはとても面白い。
 - 自分の考えだけが正しいと思いつつも怖くはない。
- 「ISO14001」の話題がシラバスに載っていたので、もっと専門的な内容を扱うのではないかと心配していたが、とても身近な内容だったのでよかった。
- グループワークや自己分析（心理テスト）などが取り込まれており、非常に親しみやすい授業だった。(2)
- 心理テストが経営学や環境問題にどう関係があるのか見えにくかった。
- 参考文献や URL を書いてほしい
- ノートをとるのにちょうど良いスピードだった。
- 「黒い森」はなぜそう呼ばれるのか気になった。
- 日本での環境教育の必要性をとっても感じているので、自分に何ができるのか、勉強していきたい。
- 「環境心理学者」というのははじめて聞いた。これからの授業が興味深い。
- 環境ベンチャーやコンサルティングの話に興味がある。